

日本のタマネギを支えて 50 年

いわ た つぎ お
岩 田 次 夫

私の住んでいる豊中町は、愛媛県にほど近く観音寺市に接する人口 1 万 2 千人ほどの町です。世帯の 5 割程度が農家世帯ですが、町農協の販売額は 11 億 5 千万円程度に過ぎません。その私のタイトルが「日本のタマネギを支えて」と書けば、ややオーバーに聞こえるでしょう。しかし、私が代表をしている株式会社七宝では、タマネギ種子を 19 億円販売しています。全国のタマネギ種子の播種量は、毎年 31 億円程度と考えられていますから、この表現も決してオーバーではないと自負しております。話がやや自慢話めいていますが、今回は、私の過去を振り返らせていただきたいと存じます。

昭和 2 年、私は経済恐慌にあえぐ農村に生まれました。間もなく日本は軍国化、大陸への侵攻を始めます。やがて太平洋戦争へと突入し、敗戦に至るのですが、そのまっただ中の昭和 18 年～20 年、私（15 歳～18 歳）は、日本の最大の海軍基地であった呉軍港の海軍工廠に学び、働いておりました。呉軍港は、延べ 4500 以上という米軍機の攻撃を受け、海軍工廠、そして市街が壊滅しました。

私は、呉でその時代の科学工業技術の先端を、その配属の関係もあって、広く体験し、また、奇しくも命びろいをして郷里に帰ることができたのでした。しかし、こと志と異なり、兄の戦死で農業を継ぐことになります。当時、農村の遅れは時代の先端で働いた身には我慢の限界をこえるものでした。こうした経過の中で哲学書との出会いもあって、人生を悟り、裏の七宝山に登って郷里を眺め、農業農村改革に生きようと決心し、苦しくとも絶対に逃避はすまいと誓いました。

小学校で同じ机に学んだ級友の海軍予科練での死が因縁でタマネギと出会い、零からの

出発で常識を破る研究開発を成功させることができました。それには先祖から受け継いだ天性と呉で学び身につけた能力が役立つことになります。

昭和 27 年「七宝玉葱採種組合」を結成し、採種技術、輪作体系を確立しました。種子の販路を生産地農協（淡路島や大阪泉南地方）との提携においたことで、品種改良の重要性を認識、最短の 17 年で F_1 育種に成功し、「株式会社七宝」を創立しました。一つの品種が世に出るには約 20 年を要しますが、主なもので 25 品種ほどタマネギ界に送り出してきました。

生産する種子の品質が認められ、口こみで拡がり、全国玉葱種子需要量の過半を供給、採種の技術も周辺農村に広がり、香川県が主産地となりました。

昭和 48 年度「朝日農業賞」を受賞、日本の農業は国際競争力がないと批判される中で、タマネギは品種改良が大きく貢献して、数少ない例外と言われています。また、昭和 61 年 4 月には、科学技術庁長官より「科学技術振興功績者表彰」を受賞しました。こうした表彰の対象となった品種改良技術に関しては、説明を省略させていただきます。

申し上げたい最も大事な点は、「企業は人也、農業もまた人也」です。関係機関のご指導もいただいたの長い努力が実って、優秀な青年が人生をかけるに値する働き場ができました。それぞれ専門の勉強をした後継者や近隣市町からぜひ採用、働かせてくれという若者達が集まり、活気がみなぎってまいりました。美しい村作りにと記念植樹した桜並木が大きく育ち、その花の下で生まれ育ちつつある三代目、孫達の賑やかな声があります。

時代の推移とともに、日本の玉葱産地の過半が北海道に移り、国際競争力をもつ農作物として、日本独自の機械化一貫体系が成立してまいりました。（ F_1 種子がそれを可能にしました）。こうしたこともあって、（株）七

宝では北海道支社研究農場を、道の中央である上川郡比布町の石狩川畔に建設、これに対処する研究を進めつつあります。

私どものタマネギの種子については、外国からも引き合いがあります。しかし、我が国へのタマネギ輸出を目論んだ種子の引き合いには、応じていません。自給用の種子であれば、喜んで輸出します。農産物すなわち生命の糧である食料を、単なる金儲けの道具にしてはいけないと考えるからです。

20 世紀、科学技術の進歩で明らかにされたところ、私たちの住む地球は 46 億年の昔、太陽との質量距離などの絶妙のバランスで水の惑星として生まれました。その原始の海で生命が誕生して 40 億年、進化分化を続け、その生命の営みで地球を変え、オゾン層を形成、4 億年前に陸上への進出を果たし、現在では 150 万種とも言われる生命が地球上に満ちております。そのうちの一つである人類は、種のサバイバルで農業を営み、科学技術を発

展させました。技術革新の効率で経済力は巨大化し、その驕りで社会正義（宇宙正義）の欠如、地球環境の破壊が進んで、種としての絶滅が心配されるところとなりました。

人は 40 億年という生命の継承で生まれています。この長い生命の継承で一コマ相違することで、自分という個人の生命は永遠に生まれる機会を失います。生まれる機会を得た生命の貴さをまず理解することが大切です。そして、それは他人も同様です。

若い日、七宝山頂で誓いをたてて 50 年、天職としてタマネギに人生をかけて生き、日本のタマネギを支えてきたと自負しても恥じない仕事をしてきたと思います。大自然の摂理として、私の元気に働けるのも残り少なくなっただと思います。70 歳、今年 6 月の（株）七宝の決算でもって、次代を担う者も育ってきましたので、私は会長にと考えています。

（香川県豊中町・（株）七宝）